

農林水産省 食料産業局長賞

沖縄県車海老漁業協同組合(沖縄県那覇市)
～島にある資源を活用した日本一の産業づくり～

組織概要

○代表者 安里 一月
○従業員 6名

○所在地 沖縄県那覇市
○設立年 平成2年



【久米島の車海老養殖場】



【養殖の車海老】



【車海老の幼生】

受賞のポイント

- 離島という不利条件にも拘わらず、地域資源である海洋深層水を活用することで、課題であった、ウイルス性の病気(急性ウイルス血症により車海老が死滅)を克服し、ウイルスフリーな車海老の完全養殖の技術を確立し、沖縄県が車海老の生産量日本一となる土台を構築した。

取組内容

■ 取組の経緯・成長の契機

- 1973年、山口県の車海老養殖業者から車海老の養殖の指導を受けた。しかし、沖縄近海には車海老は生存しておらず、九州から親海老を購入して養殖を行っていた。
- ウイルス性の病気の問題から、天然の親海老を使用しない車海老の完全養殖の必要性が高まり、沖縄県海洋深層水研究所が海洋深層水を活用した車海老の完全養殖の研究に着手し技術の確立に成功した。2002年から当組合において車海老の完全養殖の実用化に向けた取組みが始まった。

■ 取組の特徴・活動の強み(イノベーション・バリューチェーン)

- 沖縄県海洋深層水研究所と連携して海洋深層水を利用した完全養殖の研究に取組み、技術の確立に成功した。
- 久米島で海洋深層水を活用してウイルスフリーの車海老の完全養殖を行っており、幼生・稚海老を組合員15戸と准組合員である沖縄県内の漁協へ提供している。海洋深層水を利用して県内の生産時期と時期をずらして出荷することで良質かつ高価格の車海老を出荷している。
- 車海老を生き締め・急速冷凍出荷することで、皮を剥くのが簡単であり、刺身でも食べられる状態になることから、飲食店からの需要が多く、市場を通さずに販売している。
- 当漁協の組合員15名はそれぞれ民間企業の経営者であり、理事会において経営ノウハウを活用した取組みや工夫を共有することで組合員のレベルアップに繋がっている。

■ 地域への貢献・波及効果

- 久米島内だけでも4事業者が当漁協から購入した稚海老によって事業を行っており約60名の雇用を生み出している。また、島外の組合員や准組合員にも幼生・稚海老を供給しており、国内シェア40%を占める沖縄県の事業としてなくてはならない存在となっている。